

— 絵金芝居絵屏風本格修理のご報告・4 —

《 1年目の修理作業、終了間近！ 》

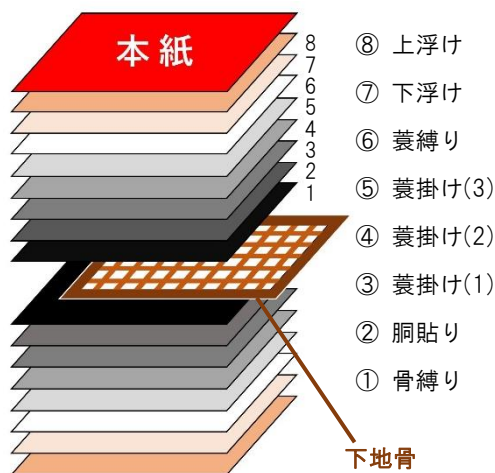
絵金蔵に収蔵している高知県保護有形文化財に指定された芝居絵屏風 23 隻のうち、未修理の 18 隻における本格的な修理事業を実施しています。

この大規模な修理を実施することにより祭りで町に芝居絵屏風を並べるといった絵金文化を守ることができ、後世へ文化を繋いでいくことができます。今回は赤岡に残る芝居絵屏風を対象としたものではありませんが、県内には各地に絵金やその弟子らによる芝居絵作品が残され、祭りに展示されたり、保管されたりと大切に受け継がれています。今すぐそれら全てに対して最適な処置を施すことは難しいかもしれませんが、できることから少しずつ進めていくための足掛かりとして、本事業が文化財の在り方を考えるきっかけになることを願っています。

助成金

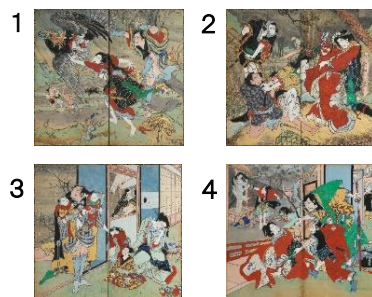
- ・文化財保護活動助成 / (公財) 朝日新聞文化財団
- ・美術品修復事業助成 / (公財) 出光文化福祉財団
- ・文化財保存修復助成 / (公財) 文化財保護・芸術研究助成財

《 屏風絵の構造 》



- 2019年度 修理作品 -

1. 花衣いろは縁起 鷲の段 (本町二区所蔵)
2. 伊達競阿国戯場 累 (本町二区所蔵)
3. 東山桜莊子 佐倉宗吾子別れ (本町二区所蔵)
4. 播州皿屋敷 鉄山下屋敷 (横町二区所蔵)



本格修理の工程 >>>

下貼 (屏風下地の制作)

芝居絵屏風など屏風の形をとる作品は、一般的には格子状の木枠に幾重にも和紙が重ねられた「下地」に本紙が最後に貼り込まれています。直接目に触れることのないこの下地ですが、作品の劣化を抑えて永く美しく保つためには伝統的な様式に則った適正な構造であることが求められ、非常に重要な作品の構成要素のひとつです。

屏風下地の構造は、格子状の下地骨の表裏両面に楮紙と間似合紙《まにあいし》(和紙)を用いた8層の下貼りを施したもので、下貼り紙は下地骨に近い位置から「①骨縛り《ほねしばり》」「②胴貼り《どうぱり》」「③④⑤蓑掛け《みのかげ》3層」「⑥蓑縛り《みのしばり》」「⑦下浮け《したうけ》」「⑧上浮け《うわうけ》」と呼ばれる8層、表裏合計16層となっています。作品の保存修理においては取り外した下地の状態を確認したのち問題ない状態であれば再利用することもあります。今回は経年により劣化していたため新調し、伝統的な様式で下地を制作しました。各層は一枚

の和紙ではなく数個のパーツに分けて貼り付けられています。「受け」の層においては、小さな紙に力を分散させることで季節による温湿度等の環境変化で伸縮した際の本紙への悪影響(シワや破れ)を最小限に抑える目的があり、その他の層においては、一枚が小さな手漉き和紙を用いるため、数個のパーツに分けて貼り付けられます。

この下地の制作過程において忘れてはならないのが修理銘の取り付けです。作品の永い歩みを見据えると恐らく持ち主は移り変わり、現在保存修理を実施しているこれらの作品もいずれ必ず再修理が求められます。その際に修理銘から得られる「以前はいつ・どの職人が・誰の指示のもと修理したのか」という明確な情報が必要な知見を与えてくれます。修理銘もまた未来の作品を護ることへと繋がっていくのです。

(2020年2月 絵金蔵)

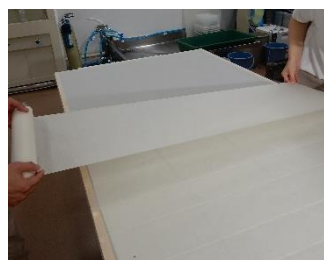


下地骨

▲①蓑掛け



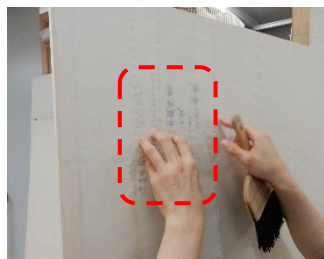
▲②蓑縛り



▲③④⑤蓑掛け



▲⑥蓑縛り



▲修理銘